第４回仙台市長杯仙台市ボッチャ大会　各区予選会
競技要領（ルール・試合の進め方）

競技規則

全国障害者スポーツ大会ボッチャルールを準用する他、この要領の定めるところにより実施します。

競技方法

（１）コートの大きさは通常の半分の６ｍ×３ｍのハーフコートを用い、スローイングボックスは２つに分けて使用。

（２）１チーム３名のチーム戦とし、試合ごとに各チームは選手３名を選出し対戦します。

（３）予選リーグの組み合わせは各組３～４チームによるリーグ戦を実施し、その後、各リーグ１位のチームによる決勝トーナメント（又は決勝リーグ戦）を行います。

（４）試合は２エンド（先攻後攻を交互に１回ずつ）を行い、２エンドの総得点で勝敗を決定。同点の場合は、予選リーグ、決勝トーナメント（又は決勝リーグ戦）ともに、タイブレイク（決戦投球）で勝敗を決定します。

※タイブレイク（ファイナルショット制度）について

・コート中央のクロスにジャックボールを配置し１球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球したチームを勝者とします。

・タイブレイクの得点は総得点に含まれません。

（５）先攻後攻はコイントスで決定（先攻が赤ボール、後攻が青ボール）。ジャックボールの投球順序は、第１エンドは先攻（赤ボール）チーム、第２エンドは後攻（青ボール）チームが行います。

（６）投球は、自陣の中であればどこから投げてもOKです。投球順序も自由です。ただし、1エンド内でできる投球は一人２球。一人が３球などの投球はできません。

（７）各リーグの順位は、以下の順で決定する。

① 勝ち数が多いチーム

② 同勝数の場合は直接対決で勝ったチーム

③ ①②で決まらない場合は、得失点差の多いチーム

④ ③で決まらない場合は、総得点の多いチーム

⑤ ①～④で決定しない場合は、タイブレイク（ファイナルショット制度）で決定する。

（８）相手チームが全ての投球を終え、自分のチームが有利な局面となった場合は、「投球をしない」こともできます。この場合は、審判に宣言し、残ったボールをボックス前に置いてください。

棄権について

（１）受付時間内に受付をしなかったチームは棄権とみなします。棄権となったチームの対戦相手は、不戦勝とし、３-０で勝利したものとします。

（２）試合開始時点で３名未満となった場合は、オープン参加扱いとなり、対戦相手が３-０で勝利したものとします。

（３）試合開始後に３名未満となった場合も同様に、オープン参加扱いとなります。

ファール（違反行為）について

（１）【一般の部】以下の行為をしたと審判が認めた場合、ファールとなり、投球したボールはリトラクション（ボール除去）となりますのでご注意ください。

・投球する選手がラインを踏んで投球した場合

・選手が同時に投球した場合

・審判の指示がある前（自分の色のパドルが示される前）に投球した場合

・ランプを使用する選手のランプオペレーターが、試合中のコートを見た場合や試合に介入していると審判が判断した場合

なお、投球ボールが、有効ボール当たり盤面が変わってしまった場合は、①審判で協議し可能な限り現状復帰します。② ①が不可の場合はエンドをやり直します。

（２）【小学生の部】違反行為があった場合は注意のみとし試合を継続します。ファールになりそうな場合、投球前に審判より声かけを行いますが、なるべくファールにならないようご注意ください。

競技時間について（持ち時間制）

（１）円滑な大会運営のため、持ち時間制を採用し、各チーム１エンド３分間とします。ランプを使用する選手がいるチーム、視覚障害のある選手がいるチームは、５分間（状況により応相談）とします。各チームともご協力をお願いします。

（２）試合中は、持ち時間内において、コート内に入りボールの状況を間近で確認することができます。コート内では、ボールに触れて動かしてしまわないよう注意してください。

選手・介助者について

（１）エントリーメンバーに変更が出る場合は、大会当日、受付にて変更届を提出してください。（同一人物が複数のチームに所属することはできません）。受付後は、人数やメンバーの変更は不可とします。なお、３名未満となった場合は、オープン参加として扱います（決勝トーナメントへの進出や、表彰の対象にはなりません）。

（２）試合中、同エンド内及びエンド間での選手交代は不可とします。試合ごとの交代は可とします。

（３）障害者や配慮が必要な子どもが出場する時に介助を必要とする場合は、原則、選手１名に付き１名の介助者を認めます。※エントリーメンバー以外の介助者は「介助ビブス」の着用をお願いします。

（４）エントリーメンバーの中に、選手兼介助者がいる場合、「介助ビブス」の着用は必要としませんが、試合開始前に選手兼介助者である旨を審判に伝えてください。※ただし、ランプオペレーターとして出場する場合、介助者を兼任することはできません。

障害内容に配慮した特別な対応について

（１）視覚障害者の選手への対応（希望がある場合のみ）

①視覚障害者の介助者人数については、１試合、選手１名に付き１名とし、その他に１チームにつき方向指示者１名、ホワイトボード操作者１名を認めます。

②方向指示者はジャックボール及びカラーボールの後方で電子ホイッスル、手ばたき等で位置・方向を知らせることができます。

③コート内に入り、各ボールの位置・距離感を確認する際、選手がボールに触れることは不可とします。

④試合中は常時、ホワイトボードなどを用いてボールの位置を磁石などで示すことができます。ただし、相手サイドの持ち時間中は投球の邪魔にならないよう、スローイングボックス後方で行ってください。

⑤ホワイトボード操作者がボールの位置をコート外から確認するため、スローイングラインより前方に出られるタイミングは、相手選手の投球が完了した時点とします。自分サイドの持ち時間中（自分サイドのパドルが示された時）は、プレイングエリアに入って確認しても構いません。

（２）手話通訳

聴覚障害者で手話通訳を必要とする選手には、手話ボランティアによる通訳を行います。手話通訳者は試合に介入することはできませんが、必要時（選手と審判のコミュニケーション時）に手話通訳を行います。

（３）その他、障害の内容により対戦チームの同意のもと申し合わせ事項を設けられるものとします。

用具について

（１）大会で使用するボールは大会事務局で用意したものを使用します。（マイボールの使用は不可）

（２）ランプが必要なチームには貸出を行います。

練習時間について

（１）各予選会のコート開放は９:００～９:２０までの間、昼休憩時間及び主催者が許可した時間に開放します。

（２）各チーム１試合目に当たる試合のみ、試合前にウォーミングアップを実施します。ウォーミングアップは、２分間経過、または全てのボールの投球が終わった時点で終了となります。その時、ジャックボールはコート中央に置いて実施となります

試合方法について

『一般の部』

【全区】

４チームまたは、３チームによる予選リーグ戦を行い、その後、各リーグの１位による決勝リーグを実施

『小学生の部』

【宮城野区・太白区・若林区・青葉区】

４チームまたは、５チームによる予選リーグ戦を行い、順位を決定する。（決勝リーグは行わない）

『チャレンジラウンド』

トーナメント形式にて実施する。

決勝大会進出条件

『一般の部』

（１）各区予選会の予選リーグでそれぞれ１位になり、決勝トーナメントに進出した全２６チーム

（２）チャレンジラウンドの上位チーム（チーム数については大会当日に発表します。）

（３）昨年度の決勝大会優勝チーム

『小学生の部』

（１）各区予選会の予選リーグでそれぞれ１位・２位になったチーム

（２）昨年度の決勝大会優勝チーム

※小学生の部では、各区予選会において決勝トーナメントの実施はありません。

※但し、決勝大会（市長杯）への出場権を辞退した場合は、順次繰り上げとなります。